大磯町立中学校生徒代表者と町長との懇談会 概要

- 1 日 時：平成30年7月12日（木）13:30～14:30
- 2 会 場：大磯町役場 公室
- 3 参加者：中崎町長・大磯中学校生徒会本部役員6名（3年生5名・2年生1名）・国府中学校生徒会本部役員7名（3年生5名・2年生2名）
- 4 懇談内容：

○町長 昨年の10月から、町の中学校給食が頓挫してしまっている。中学生の皆さんにも意見を聞いて、再開しようとしている。昨年、あのまま順当にいけば、今も給食を食べることができていたと思う。平成28年の1月にスタートした時は、中学校に給食のための施設がなかった。他から持って来るという方法で始めたが、準備不足があった。継続して給食が出せずに申し訳なかった。

9年間の義務教育のうち、1/3は昼食である。その昼食を、きちんと考えられていてバランスのよいものを食べさせたいと考えた。国の「食育基本法」でも、子ども達がバランスよく食べて大きく立派になるように考えられている。しかし、美味しくなければ元も子もない。中学生はカリキュラムがあって毎日忙しく、今日のような話合いの時間を作るのも難しいことは承知しているが、大磯町は、このように「食育の話」を子ども達にしてこなかった。やはり準備が不足していたのだと思う。

身体は食べたものを基本としてできている。君たちにも9年間の義務教育の間、バランスよく食べてほしかった。君たちのお母さんは、君たちがもし「肉ばかり食べたい！」と言っても「野菜も食べなさい！」と言うでしょう。偏った食生活をしていると、血管が固くなったり、動脈硬化になってしまう。昔、江戸時代では50歳ぐらいで亡くなっていたのが、今の食生活では栄養バランスが考えられているので、毎日無意識に食べていても寿命は延びている。そのバランスを考えていくと、給食というものにはどうしても制限が出てくる。自分は癌の医者だが、まず、味が濃いものはよくない。脂もよくない。ごはんの「おこげ」なども美味しいが、発癌性物質が含まれている。君たちがお父さん・お母さん、おじいさん・おばあさんになっても、医者に行かなくてすむようにしたいと考えた。君たちなら、「ちゃんと食べる」とこと、「医者に行く」とことのどちらを取りたいか。やはり病気になって医者に行くは嫌だし、食べたいだろう。それが給食のはずだった。でも十分な準備ができなかった。当時の3年生に一日でも多く給食を食べさせてあげたかった。でも、君たちが望む給食ができなかった。ブランクを作ってしまう、大変申し訳ない。

知育・徳育・体育、と言われるが、健全な精神と肉体を作るにはやはり「食事が基本」である。きちんと計画され、計算された食事を給食として出してあげたかった。でも「まずい」となった。反省して改善して、全員給食をやりたい。学校給食法に基づいて、アレルギーなど、特別な理由がある人以外は、全員に給食を出そうと考えている。

○生徒 皆と同じものが食べたい。

○生徒 昨年12月にとったアンケートでも、23%が「給食がいい」・77%が「家庭弁当がいい」と答えている。その理由は「この前のスクールランチみたいになるのが嫌だから」。でも普通に美味

しい給食だったら「給食がいい」という人は増えると思う。

○生徒 小学校の給食のように美味しければ、皆、食べると思う。

○町長 町としては、なんとか美味しいものを提供したい。今後、町は給食の方式に関する調査をすることになっているという説明を聞いたと思うが、今はデリバリー給食は中止になって、給食は休止中。もう一度検討したい。町には学校が4校あるし、いろいろな可能性もある。今度は配送距離の問題はない。中学校の敷地内に作れるのか？小学校で中学生の分も作れるのか？または給食センターを作るのか？とにかく30分以内で温かいままの給食を提供できる方策を今、考えている。ただし、行政がやることなので、税金を使うことになる。まずは町の議員さんに予算を使うことを認めてもらうことになる。できるだけ早くと考えている。

○生徒 国府中はアンケートをとらなかった。美味しいとか美味しくないとか、先入観もあって、アンケートを取らなかったのもその辺りにある。前回の話で、「親子方式がいい」という話で一致していたと思う。国府中には「目安箱」があるので、そこに意見が入る。

○生徒 アンケート結果を見て、今のままがいいという理由は、この前のようにするのが嫌だというのが半数以上。新しい給食の方式になっても、スクールランチの美味しくないイメージをどこまで消せるかだと思う。

○生徒 そもそもスタートの時点で自分たち生徒の意見が反映されなかった。聞いてもらえた実感がなかった。町や大人たちが自分たちの意見を聞いてくれなかったらということのほうが嫌なのだと思う。

○町長 生徒の意見をどれだけ反映させられるかどうかだが、皆さんの意見も入れてあげたいが、取り入れられないものもある。（前出の生徒の意見に対し）今度はそうならないように町を信用してほしい。今までもこのような機会をもてばよかった。

○生徒 スクールランチの話はもう生徒の間では「過ぎたこと」になっていて、今度また給食が始まれば食べると思う。

○生徒 今度、給食が始まれば、ひとまず食べると思う。美味しいと思えたらまた食べる。いい方向の連鎖になると思う。前回は、先輩たちの噂から、食べる前から「美味しくない」という風潮があった。新しい給食になったら一旦は食べる。それが美味しければいい。

○生徒 完全な給食を出すために町はどのようなことができるのか？

○町長 完全な給食といっても味や食感への感じ方は家庭によって違いがあるので難しいが、平均的なものを出したいと考えている。今までの課題で改善できるところは減らしていきたい。温度については改善できる。

○生徒 意見箱に意見も入ったが、町長と会って話す機会もなかったなので、不満をもってしまった。

○町長 今度は、100%に美味しいと思われなくても、食べる人の意見を聞きたいと思う。もう一度、給食のことを、教育委員会とともに考えたい。目安箱にも言ってほしい。反映できることは反映させていきたい。皆が同じものを食べて病気を防げるよう、もっともっと意見を聞きたい。新しい給食を始めるタイミングは考える。できるだけ早くしたいと考えている。

以上